

< ロングラーニングケア・プログラム >

科目	呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連		
特定行為	気管カニューレの交換		
時間数	11	講義8 演習1 OSCE1 試験1 実習	
概要	長期呼吸療法の必要性や特徴を理解し、安全に管理するために気管切開に関連した基礎知識を学ぶ。 医師の指示の下、手順書により身体所見（バイタルサインや皮膚所見等）及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、気管カニューレ交換ができるようになるための知識と判断過程、技術を学ぶ。		
目標	1. 呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連に含まれる特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける 2. 医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「気管カニューレの交換」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる 3. 手順書の案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う		
講師	大島 拓（救急科） 今枝太郎（救急科） 外部講師		
	学ぶべき事項	内容	方法
1	(共通)呼吸器 (長期呼吸療法に係るもの) 関連の基礎知識	気管切開の目的、局所解剖、適応と禁忌	講義
2		気管切開を要する主要疾患のフィジカルアセスメント、気管切開に伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義
3		気管切開を要する主要疾患の病態生理（1）	講義
4		気管切開を要する主要疾患の病態生理（2）	講義
5	気管カニューレの交換	気管カニューレの適応と禁忌、気管カニューレの構造と選択	講義
6		気管カニューレの交換の困難例の種類とその対応	講義
7		気管カニューレの交換の手技（1）	講義
8		気管カニューレの交換の手技（2）	講義
9		気管カニューレの交換	演習
10		気管カニューレの交換	OSCE
11	科目修了試験		試験
12	実習	気管カニューレの交換 5症例	
評価	講義	全講義受講（履歴確認）・確認テスト80%以上	
	試験	筆記試験 得点率90%以上	
	OSCE	総点数80%以上、かつ、概略評価3段階以上	
	実習	各症例60%以上：評価表とレポート	

< ロングラーンケア・プログラム >

科目	ろう孔管理関連		
特定行為	(A) 胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換		
	(B) 膀胱ろうカテーテルの交換		
時間数	27	講義22 演習2 OSCE2 試験1 実習	
概要	瘻孔管理の必要性や特徴を理解し、安全に管理するために必要な基礎知識を学ぶ。 医師の指示の下、手順書により身体所見（バイタルサインや皮膚所見等）及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル、胃ろうボタン交換、膀胱ろうカテーテル交換ができるようになるための知識と判断過程、技術を学ぶ。		
目標	1. ろう孔管理関連の特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける		
	2. 医師の指示の下、手順書により、身体所見等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換」の実施の 判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる		
	3. 医師の指示の下、手順書により、身体所見等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「膀胱ろうカテーテルの交換」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に 行えるようになる		
	4. 手順書の案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う		
講師	大島 拓（救急科）		
	外部講師		
	二瓶直樹（みはま病院 泌尿器科）		
学ぶべき事項	内容	方法	
1	（共通）ろう孔管理関連の基礎知識	胃ろう、腸ろうに関する局所解剖	講義
2		膀胱ろうに関する局所解剖	講義
3		胃ろう、腸ろうを要する主要疾患の病態生理	講義
4		膀胱ろうを要する主要疾患の病態生理	講義
5		胃ろう、腸ろうを要する主要疾患のフィジカルアセスメント	講義
6		膀胱ろうを要する主要疾患のフィジカルアセスメント	講義
7		カテーテル留置と患者のQOL（1）	講義
8		カテーテル留置と患者のQOL（2）	講義
9		カテーテルの感染管理	講義
10		カテーテル留置に必要なスキンケア	講義
11	（A）胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換	胃ろう及び腸ろうの目的、適応と禁忌、栄養に関する評価、胃ろう造設の意思決定ガイドライン	講義
12		胃ろう及び腸ろうに伴うリスク（有害事象とその対策等）（1）	講義
13		胃ろう及び腸ろうに伴うリスク（有害事象とその対策等）（2）	講義
14		胃ろう及び腸ろう造設術の種類、胃ろう、腸ろうカテーテル及び胃ろうボタンの種類と特徴	講義
15		胃ろう、腸ろうカテーテル及び胃ろうボタンの交換の時期、交換の方法（1）	講義
16		胃ろう、腸ろうカテーテル及び胃ろうボタンの交換の時期、交換の方法（2）	講義
17		胃ろう・腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンの交換	演習
18		胃ろう・腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンの交換	OSCE

< ロングラーメケア・プログラム >

19	(B) 膀胱ろうカテーテルの交換	膀胱ろうの目的、適応と禁忌、伴うリスク（有害事象とその対策等）（1）	講義
20		膀胱ろうに伴うリスク（有害事象とその対策等）（2）	講義
21		膀胱ろう造設術	講義
22		膀胱ろうカテーテルの種類と特徴、交換の時期、交換の方法（1）	講義
23		膀胱ろうカテーテルの種類と特徴（2）	講義
24		膀胱ろうカテーテルの交換の時期、交換の方法（2）	講義
25		膀胱ろうカテーテルの交換	演習
26		膀胱ろうカテーテルの交換	OSCE
27	科目修了試験（筆記試験）		試験
28	実習	胃(腸) ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換 5症例 ・ 膀胱ろうカテーテルの交換 5症例	
評価	講義	全講義受講（履歴確認）・確認テスト80%以上	
	試験	筆記試験 得点率90%以上	
	OSCE	総点数80%以上、かつ、概略評価3段階以上	
	実習	各症例60%以上：評価表とレポート	

< ロングラー姆ケア・プログラム >

科目名	栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連		
特定行為	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入		
時間数	11	講義8 演習1 OSCE1 試験1 実習	
概要	末梢留置型中心静脈注射の必要性や特徴を理解し、安全に管理するために必要な基礎知識を学ぶ。 医師の指示の下、手順書により身体所見（バイタルサインや皮膚所見等）及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、末梢留置型中心静脈注射用カテーテル挿入ができるようになるための知識と判断過程、技術を学ぶ。		
目標	1. 栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連の特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける 2. 医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「末梢留置型中心静脈注射用カテーテル（PICC）」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる 3. 手順書の案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う 5. 実施、報告の一連の流れが適切に行える。		
講師	大島 拓（救急科） 藏田能裕（食道・胃腸外科）		
	学ぶべき事項	内容	方法
1	(共通) 末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理の基礎知識	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルに関する局所解剖 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルを要する主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント、目的（1）	講義
2		末梢留置型中心静脈注射用カテーテルを要する主要疾患の病態生理、フィジカルアセスメント、目的（2）	講義
3		末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの適応と禁忌、伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義
4	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入の適応と禁忌	講義
5		末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入に伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義
6		末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入方法と手技（1）	講義
7		末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入方法と手技（2）	講義
8		末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入方法と手技（3）	講義
9		末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	演習
10		末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入	OSCE
11	科目修了試験		試験
12	実習	末梢留置型中心静脈注射用カテーテル挿入 5症例	
評価	講義	全講義受講（履歴確認）・確認テスト80%以上	
	試験	筆記試験 得点率90%以上	
	OSCE	総点数80%以上、かつ、概略評価3段階以上	
	実習	各症例60%以上：評価表とレポート	

< ロングラー姆ケア・プログラム >

科目	創傷管理関連		
特定行為	(A) 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去		
	(B) 創傷に対する陰圧閉鎖療法		
時間数	37	講義34 演習 1 OSCE1 試験1 実習	
概要	創傷管理の必要性や特徴を理解し、安全に管理するために必要な基礎知識を学ぶ。 医師の指示の下、手順書により身体所見（バイタルサインや皮膚所見等）及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去、創傷に対する陰圧閉鎖療法ができるようになるための知識と判断過程、技術を学ぶ。		
目標	1. 創傷に関連した局所解剖・病態生理を理解し、フィジカルアセスメントができる。		
	2. 手順書案を作成し、再評価、修正できる。		
	3. 医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、実施の可否を判断できる。		
	4. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去、創傷に対する陰圧閉鎖療法ができる		
	5. 実施、報告の一連の流れが適切に行える。		
講師	大島 拓（救急科）		
	窪田吉孝（形成・美容外科）		
学ぶべき事項		内容	
1	(共通) 創傷管理 関連の基礎知識	皮膚、皮下組織（骨を含む）に関する局所解剖、主要な基礎疾患の管理、全身・局所のフィジカルアセスメント	講義
2		慢性創傷の種類と病態、褥瘡の分類、アセスメント・評価、治療のアセスメントとモニタリング（創傷治療過程、TIME理論等）	講義
3		リスクアセスメント、褥瘡及び創傷治療と体圧分散、褥瘡及び創傷治療と排泄管理	講義
4		褥瘡及び創傷治療と栄養管理	講義
5		DESIGN-Rに基づいた治療指針	講義
6		褥瘡及び創傷の診療のアルゴリズム、褥瘡の治療のステージ別局所療法	講義
7		感染のアセスメント	講義
8		下肢創傷のアセスメントと病態別治療（1）	講義
9		下肢創傷のアセスメントと病態別治療（2）	講義
10		下肢創傷のアセスメントと病態別治療（3）	講義
11		下肢創傷のアセスメントと病態別治療（4）	講義
12		創部哆開創のアセスメントと治療	講義

< ロングラーメケア・プログラム >

13	(A) 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の目的 (1)	講義	
14		褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の目的 (2)	講義	
15		褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の適応と禁忌 (1)	講義	
16		褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の適応と禁忌 (2)	講義	
17		褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴うリスク (有害事象とその対策等) (1)	講義	
18		褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴うリスク (有害事象とその対策等) (2)	講義	
19		DESIGN-Rに準拠した壊死組織の除去の判断	講義	
20		全身状態の評価と除去の適性判断 (タンパク量、感染リスク等) (1)	講義	
21		全身状態の評価と除去の適性判断 (タンパク量、感染リスク等) (2)	講義	
22		壊死組織と健常組織の境界判断 (1)	講義	
23		壊死組織と健常組織の境界判断 (2)	講義	
24		褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の方法	講義	
25		褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴う出血の止血方法 (1)	講義	
26		褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴う出血の止血方法 (2)	講義	
27		褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	演習	
28		褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	OSCE	
29		(B) 創傷に対する陰圧閉鎖療法	創傷に対する陰圧閉鎖療法の種類と目的	講義
30			創傷に対する陰圧閉鎖療法の適応と禁忌、リスク (有害事象とその対策等)	講義
31	物理的療法の原理 (1)		講義	
32	物理的療法の原理 (2)		講義	
33	物理的療法の原理 (3)		講義	
34	創傷に対する陰圧閉鎖療法の方法 (1)		講義	
35	創傷に対する陰圧閉鎖療法の方法 (2)		講義	
36	創傷に対する陰圧閉鎖療法に伴う出血の止血方法		講義	
37	科目修了試験		試験	
38	実習	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去 5症例 創傷に対する陰圧閉鎖療法 5症例		
評価	講義	全講義受講 (履歴確認) ・ 確認テスト80%以上		
	試験	筆記試験 得点率90%以上		
	OSCE	総点数80%以上、かつ、概略評価3段階以上		
	実習	各症例60%以上：評価表とレポート		